



佐々木 英徳 議員 

避難所について

問 避難所の生活環境には、スフィア基準が重要である。この基準には、人道支援の考え方や最低限満たすべき基準、プライバシーの確保、避難所運営の目安が示されている。スフィア基準について所見を伺う。

答（総務部長兼危機管理監） スフィア基準の理念である、被災者は尊厳ある生活を営む権利を持っているという、避難所生活

を送る上で守られるべき環境が整備されることで、災害関連死の防止にもつながる。国より、この内容を盛り込んだ避難生活に関する指針が示されたので、市でも、その趣旨と目的に沿った避難所での生活環境に係る取り組みを進めていく。



空き家について

問 神戸市は、弁護士を含む9人の特命チームを編成し、空き家対策に取り組んでいる。この

チームは財産管理制度などを活用し、改善が見られない「危険空き家」や、所有者が不明、不在で状態が改善される見込みがない「所有者不明空き家」の早期改善を推進している。この取り組みについて所見を伺う。

答（都市建設部長） 神戸市の事例では、財産管理制度を集中的かつ効果的に活用することで、早期改善を進めている。現在市では、全国空き家アドバイザー協議会茨城県古河支部とともに、空き家の予防、利活用に取り組んでいるが、さらに増えることが予想される所有者不存在の空き家についても、今まで以上に対策していく必要がある。今後、庁内関係部署との連携強化も含めて検討していきたい。



靄見 久美子 議員 

小学校健診に遺伝病検査導入について

問 遺伝病は遺伝情報を担う染色体や遺伝子の変化によって起きる。多くは両親から受け継がれ、家族間で伝わる可能性が高い。遺伝病の一つに血液中の悪玉コレステロール値が高くなる家族性高コレステロール血症があり、心筋梗塞などを発症する割合が、通常の10倍以上とされる。学校健診に血液検査を取り入れ早期発見、早期治療が重要である。所見と課題について

伺う。

答（教育部長） 家族性高コレステロール血症を含む、小児生活習慣病のリスクが高い児童生徒を早期発見できる点、保健指導を効果的に実施し、家庭でも生活習慣病を予防していく点で有用と考えている。市では、平成25年度から令和2年度まで小児生活習慣予防健診として、学校内で血液検査を実施していた。しかし、採血時に体調不良となる児童生徒が多く、取りやめた経緯があることから、血液検査への懸念が課題である。早期発見と管理により、リスクを大幅に低減できる病気のため、効果的な施策について国や県の動向を注視していきたい。

子宮頸がんワクチン接種について

問 子宮頸がんは早期に発見すれば治療がしやすく、予後が良いとされる。ワクチン接種の公費助成が延長され、対象者への周知や情報伝達について伺う。

答（健康推進部長） 個別通知のほか、医療機関や市内高等学校等へポスターやチラシの配布、公式LINEや広報など、さまざまな手段で情報発信してきた。今後も、接種希望者が機会を逃さないよう、周知していく。

